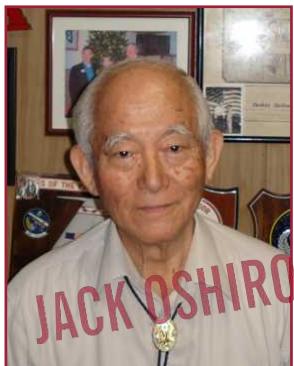


# !!! 今月の SpotLIGHT!

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて紹介していくコーナーです。今回はこの方にお話をうかがいました。



おおしろ  
**大城 ジャックさん**  
Jack's Place クラブ・マネージャー



## Q1. あなたの職種と仕事内容をお聞かせ下さい。

私のタイトルはクラブマネージャーで、ジャックス・プレイスで幅広い仕事をしています。クラブのマネジメント、キッチンシェフ、パーティーコーディネーター等を私が取り仕切っています。この仕事というのは毎日の変化なので、チャレンジングです。勉強したら面白いと思います。私はコックの仕事もわかるし、ドリンクもわかるし、レギュレーションもわかるし、何でもやります。

## Q2. 職場のスタッフ構成は？

現在は、従業員は36名いますが、全員日本人です。コックは11名、一番多いです。なぜかというと、お客様が注文してから食事を作るからです。ウェイター、バーテンダー、キャッシャーもいます。必要に応じてコントラクター（契約従業員）を雇います。

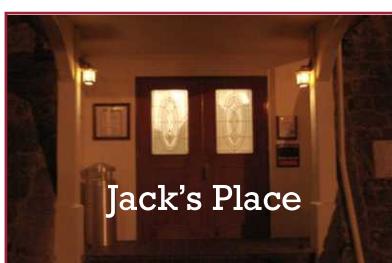
## Q3. この職場に勤めてどのくらいですか？

ここ(Jack's Place)に来てから42年になります。軍では58年前から勤めています。私の友人が当時将校クラブで働いており、見学に行った際に偶然採用されました。以前は将校クラブにいましたが、沖縄本土復帰の2年前にその当時の司令官(General)命令でこちらに異動してきました。当時、復帰があったこともあります。一時的に日本人従業員は減りましたが、私は数少ない残った日本人従業員でした。その後、徐々に日本人従業員も増えました。ここに移ってから、キッチンを約10倍、駐車場96台分を拡張、鉄板焼のコーナーを始めました。手頃な値段で食事を提供できるようにしました。

## Q4. この仕事を振り返ってどう思いますか？

悔いはないです。23歳のころ、アイオワ大学に入学予定でしたが、現在の将校クラブの統合 拡張などもあり、あまりにも忙しくて入学するのを忘れてしまいました。しかし、これでよかったです。一生懸命働き、仕事を自分のものにしようと努力しました。最初は何もわかりませんでしたが、仕事について理解しようとした。あの頃は、1つのことを聞かれて、5つぐらいわからないとアメリカ人から信用してもらえませんでした。ですので、勉強をものすごくしました。今では、フードも全部自分で作れますし、メニュー、レシピも知っています。マネージャーとしてレストランをまとめる立場にありますが、いつも現場にいるのでお客様がどのような様子なのかわかります。

昔に比べると、今のは楽になったのではないかと思います。私の時代には根性がないと。以前、将校クラブは、約450人の従業員があり、昼夜と仕事がありました。それにクラブだけではなくて、BOQと呼ばれる宿泊施設も私の下にありました。そこの従業員も私が雇つたりしていました。当時の私は、昼夜問わず働く仕事のため、いつでも誰が来ても対応できるように、長い間、自宅ではなく基地内のタイガーラインというところに住んでいました。あまりにも長時間働くこともあったため、前日の晩私がウイ



Jack's Place

スキーをサーブしたある将官が、翌日早朝から働いているのを見て驚いていました。「あれは僕の弟だよ」といってごまかしましたけどね(笑)。当時、私の下には、日本人従業員もアメリカ人の兵隊も働いていましたが、平等に仕事が回るように考慮しました。私が常に考えているのは、ベースについて何ができるか。これが私の仕事だと思っています。

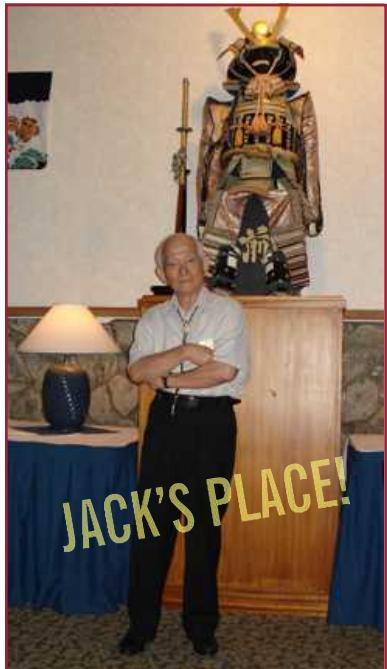
### Q5. この仕事の一番大切なことは何ですか？

いかにお客さんによりサービスを提供するか。これがFSS（任務支援中隊）の目的です。食事がおいしくないと人はきません。また行動をすぐに起こすということ、そして、考えること、適切な判断を下すということも大切です。そして、日ごろから色々なことへの知識や理解を深めておくということです。色々な本を熟読する、私は、テレビの横にいつもノートを置いていますが、クラブに関連することがあれば、すぐに書き留める。そして、実践できることがあればすぐに取り入れる。勉強する意思がないとダメですね。いつも勉強です。そうすれば、例えば設備に修理が必要な場合、その仕組みがわかっているためお金を使わずに直すことができます。

このビジネスは、いかに利益（profit）を出し、セーブ（節約）するかを考えなければなりません。人を対象にする仕事なので、ずっとコンピューターの前に座っているようではダメです。また、きちんとした挨拶ができるようにならないといけません。

### Q6. アメリカ人と働く環境で大事なことは何ですか？

**SpotLIGHT!**  
**SpotLIGHT!**



異国の人間と付き合っていくためには、相手のことを正しく理解することが大事だと思います。それには教養がないとダメです。一方で、わからないことは教えてもらいました。特に、将校婦人会の奥様方には大変助けられました。今の自分があるのは、彼女たちのお陰だと思っています。ご婦人方から、どのような会合にしたいかを事前に聞き、希望があればデコレーションについて猛勉強し、事前に準備しました。

### Q7. 軍の仕事で一番驚いたことは？

楽しいことばかりで、驚いたことはあまりないです。自分が驚いていたら、この仕事はできません。

### Q8. 同じような職種に就こうと考えている方へのアドバイスは？

クラブビジネス、レストランビジネスというのは、人が好きでないできません。もし、お客様の中に手助けが必要な人がいれば、自然にヘルプする。私は幼いころに、父に「弱いものは助けなさい」と教えられました。私は運動もよくします。アメリカの格言にもありますが、運動している人に共通していることのように思います。怒られても、素直にそれを受けとめることができるよう思います。ここでは、従業員にも、怒られてもその人の顔をちゃんと見れるように教えています。また、やる気も大事です。すべてに徹しないとダメだと思います。そして、勉強が必要です。私はアメリカのテーブルセッティングについて一から勉強しました。他人が何をやっているかよく見る、そして沢山の人と友達になり助ける。そういうことが大事だと思います。



(写真全て、嘉手納基地広報局：川武 沙弥香 撮影)

**SpotLIGHT!**  
**SpotLIGHT!**  
**SpotLIGHT!**  
**SpotLIGHT!**  
**JACK OSIRO!**



現役高校生、デリースが教えてくれる  
嘉手納基地内学校情報あれこれ

PART 5

嘉手納基地広報局インターン生  
嘉手納ハイスクール3年 デリース・ダニエルズ著・編集

## Kadena Middle School (嘉手納中学校)

嘉手納ミドルスクールは、その名前にもあるように嘉手納基地に所在する学校で1990年に創設されました。嘉手納ミドルスクールは開校以来およそ14,000人もの卒業生を輩出しています。現在、6年生から日本の中学2年生にあたる8年生までの3学年で約600人の生徒が同学校に通っています。9年生（中学3年生）から12年生（高校3年生）の生徒はハイスクールに通います。嘉手納ミドルスクールには約60人の先生方がいて、生徒10人に先生1人という割合です。各学校マスコットがありますが、嘉手納ミドルスクールのマスコットはウルバリン（wolverineクズリ）です。



嘉手納ミドルスクールの生徒はとてもユニークなスケジュールを持っています。一人一人の生徒のスケジュールは毎日「A day」か「B day」という2つのタイプで時間割を組みます。授業は一科目90分です。「B day」の一番最後のクラスはセミナーとなっていて宿題をして良い時間となっています。英語（米国の国語の時間）、数学、科学、社会／歴史は必修科目で、それ以外の3科目を生徒自身が選ぶことになっていて、生徒は自分が興味を持っている授業を選ぶことができます。ある生徒は音楽バンドを受けたりします。その他、スペイン語、日本語、中国語、家庭科、美術、体育、など様々な選択肢があります。



## Jr. ROTC (ジュニア・アール・オー・ティー・シー)

アメリカは愛国心が強い自由な国として知られていますが、それは幼い頃から自国を守ろうという意識の強い人が多いからなのかもしれません。アメリカの高校にはJROTC(Junior Reserve Officer Training Corps : 準予備役将校訓練部)という軍隊に入る前の特別なクラスがあります。そのクラスでは軍隊に入る前に、必要な訓練を受けたり軍隊の仕組みやルールなどを学びます。

このクラスを受講する生徒は、週に一度、軍のユニフォーム（半袖、ブルー）を着用して学校に登校する日があり、その日は一日中そのユニフォームのまま授業を受けます。JROTCにはまたクラブ活動があり、ボランティア活動などを行っていますが、そのクラブに入る生徒は迷彩服の軍服を着用することができます。ユニフォームはJROTCクラスから貸与され、終了したら返却します。ちなみに嘉手納ハイスクールは空軍の制服、久場崎ハイスクールは海兵隊基地管轄にありJROTC受講生徒は海兵隊の制服を着ます。

(次ページへ続く)

(前ページより続き)

嘉手納ハイスクールは（日本の高校と違い）4学年あります。4学年全体でおよそ100名の学生がJROTCに在籍しています。1年間だけJROTCに入る生徒もありますし、4年間続ける生徒もいます。4年間続けると大学進学の際、奨学金取得に好影響をもたらします。

JROTCのクラスでは、学年や成績によって Flight Commander（小隊司令官）や Squadron Commander（中隊司令官）というように生徒のJROTC内でのランク（階級）を先生が決定します。その生徒のランクが高くなると、役割が違ってくるため、様々な責任を負わなければなりません。嘉手納ハイスクールには、このクラスを受け持つ先生が3人あり、軍隊を退役した方々です。ROTCのようなクラスは大学にもあります。大学へ入学後初めてROTCに在籍する学生もいますし、また軍隊に入隊したいと考えている生徒は高校・大学とJROTC、ROTCのクラスを継続して取る学生もいます。



JROTC



## 在沖米軍のペット規則、特定犬種を禁止

第18航空団広報局

2012年10月1日より、沖縄の米軍基地内の家族住宅においてペットを飼うにあつたっての規則が改正されたことに伴い、特定の犬種（ピットブル、ロットワイラー、ウルフドッグ、ドーベルマン ピンシャー、チャウ チャウ）およびその血統が入った雑種は、米軍基地内の家族住宅でペットとして飼うことができなくなりました。この新規則は、在沖空軍のみならず全米軍の家族住宅に適用されます。これに伴い、これから沖縄に赴任する米軍関係者は、禁止対象の犬種の持込ができなくなります。今回の規制導入時点で、すでに禁止対象の犬種をペットとして飼っている場合には、この規則の適用外となります。10月1日前に米軍基地内の動物病院で登録することが求められます。

Skoshi Kadena, published by 18th Wing Public Affairs, Kadena Air Base Kadena Web Site: <http://www.kadena.af.mil> E-mail: 18wg.pa@kadena.af.mil



Chief, 18th Wing Public Affairs Office: Major Christopher Anderson

Editors: Ms. Takako Fukuwara, Mr. Hideaki Sakihama, Ms. Keiko Toma, Ms. Sayaka Kawatake, Ms. Makiko Miyara and Ms. Derrice Daniels

Graphic Designer: Ms. Naoko Shimoji

The Skoshi Kadena is published monthly and is an authorized publication by 18th Wing Public Affairs in Kadena Air Base. Contents of the Skoshi Kadena are not necessarily the official views of or endorsed by the U.S. Government, the Department of Defense, or the Department of the Air Force. The editorial content is edited, prepared, and provided by the 18th Wing Public Affairs Office. All photographs are Air Force photographs unless otherwise indicated. Contents may not be reproduced, distributed, or translated without the prior written permission from the 18th Wing Public Affairs Office.

『スコシカデナ』は、嘉手納基地第18航空団広報局より毎月発行されている出版物です。編集内容は、第18航空団広報局により編集、準備、提供されています。掲載される内容は、米国政府、米国国防省または米空軍の見解・承認を必ずしも反映するものではありません。第18航空団広報局の書面による事前許可なしに、掲載写真や記事の無断転載を禁止します。